

災害伝承施設の維持管理・運営の実態に関する研究

Research on the actual state of maintenance, management, and operation of facilities for disaster lore

○高橋佑侍¹, 菅原遼², 江川香奈²

*Yuji Takahashi¹, Ryo Sugahara², Kana Egawa²

Abstract: The purpose of this paper is to grasp the general situation of facilities for handing down the traditions of disasters and the actual management and operation of each facility from the viewpoint of changes in the number of visitors. In the development stage, it is important to plan the facility in conjunction with neighboring facilities, and in the management stage, financial aspects are an issue, while the ingenuity of the exhibition content influences satisfaction. In terms of attracting visitors, the method of attracting visitors in cooperation with companies and local governments is an issue.

1. はじめに

2011年3月に発生した東日本大震災では、大規模な地震に伴い発生した津波により甚大な被害が生じたことから、災害の実態と教訓を伝承することを目的とした施設（以下、災害伝承施設）が沿岸部を中心に建設されてきた。この施設の一部を構成する災害遺構の保存に際しては、国による保存費用に関する支援が行われてきたが、その後の維持管理、運営費に関する支援はなく、地域住民と自治体間での保存・解体に関する考え方の相違による合意形成の難航も問題となっている^[1]。そのため、災害の教訓を伝える防災教育の重要な役割をもつ災害伝承施設の持続的な運営方を検討することは喫緊の課題であるといえる。

そこで本稿では、全国の災害伝承施設に着目し、来場者の推移からみた災害伝承施設の概況と各施設の管理運営の実態の概要を捉えることを目的とする。

2. 調査概要

Table.1に調査概要を示す。まず、特定の災害の教訓等をこれからの防災・減災に活かすことを目的として設けられた「日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク」に登録されている特定の自然災害の伝承施設63件を対象とし、文献調査および電話確認調査を行った。次いで、施設の概況を把握できた43件に対し、維持管理・運営に関するアンケート調査を行った。

3. 来場者数からみた災害伝承施設の概況

Fig.1に平均年間来場者数と延床面積の関係を示す。これをみると、延床面積3,000㎡以下の災害伝承施設は全体の半数を占め、平均年間来場者数が1~10万人の範囲に多く分布していることがわかる。また、災害遺構を保存している施設は平均年間来場者数が比較的多い傾向がみられることから、展示内容の豊富さ等が来場者の増加に影響していることが考えられる。

Table.1 Survey Summary

第1段階 全国の災害伝承施設の概況の把握	
調査対象	災害伝承ミュージアムに登録されている特定の自然災害の伝承施設(63件)
調査方法	文献(web)調査:各災害伝承施設HPに記載されたデータ 電話確認調査:各災害伝承施設管理者に電話
調査期間	2024年3月~8月
調査内容	1. 月別来館者数(会館~現在), 2. 延床面積, 3. 施設管理・運営主体, 4. 開設年
第2段階 全国の災害伝承施設の取り組みに対する重要、工夫、課題度合いの把握	
調査対象	災害伝承ミュージアムに登録されている特定の自然災害の伝承施設(43件)
調査方法	アンケート調査:各災害伝承施設の管理・運営主体
調査期間	2024年8月~9月
調査内容	1. 災害伝承施設の整備経緯(計画~設立) 2. 災害伝承施設の運営状況 3. 災害伝承施設の集客方法 4. 災害伝承施設の構成・利用上の課題・総合満足度

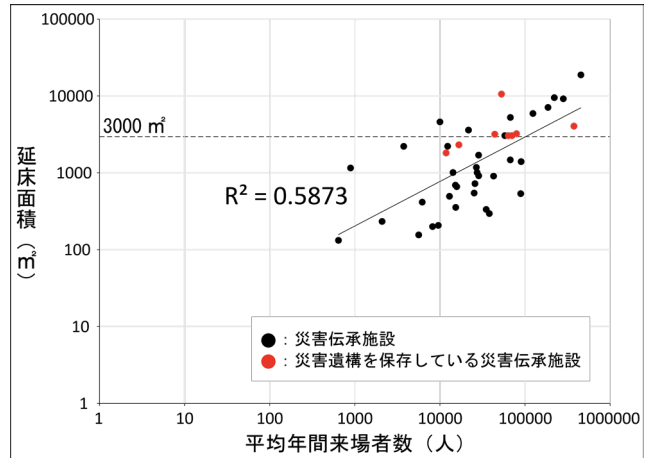


Figure.1 Number of visitors and total floor space

Table.2 Satisfaction with disaster lore facilities

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	全くそう思わない
計画内容	2 (9%)	6 (27%)	13 (59%)	1 (5%)	0 (0%)
運営状況	1 (5%)	13 (59%)	6 (27%)	2 (9%)	0 (0%)
集客状況	1 (5%)	3 (14%)	14 (64%)	4 (18%)	0 (0%)
整備状況	1 (5%)	5 (23%)	12 (55%)	4 (18%)	0 (0%)
展示内容	4 (18%)	6 (27%)	11 (50%)	1 (5%)	0 (0%)

4. 災害伝承施設の実態

災害伝承施設の管理・運営には、施設の整備段階からの課題が多く、持続的な運営に繋がっていないことが考えられる。そこで、第1段階にて回答の得られた事例43件を対象にアンケート調査を行い、回答の得ら

1: 日大理工・院(前)・海建 2: 日大理工・教員・海建

れた22件について、整備段階から現在における各項目に関して、重要度や工夫度、課題度について確認した。

4-1. 災害伝承施設の総合的満足度について

Table.2に災害伝承施設の総合的満足度について示す。運営状況については「とてもそう思う（とても満足である）」、「ややそう思う」が計60.0%以上の回答がみられ比較的満足度が高いことがわかる。しかし、他の項目に関しては「どちらでもない」、「ややそう思わない」、「全くそう思わない」が全体の50.0%以上を占め、各項目に対して課題が残っていることが考えられる。

4-2. 災害伝承施設の整備経緯について

整備経緯に関する14項目の平均値に基づくプロフィール分析を行った(Fig.2)。これより、重要度については全ての項目にて比較的重要であることが確認できた。しかし、周辺施設に関する項目においては工夫度や課題度についても値が高いことから、施設単体ではなく周辺施設と併せて計画することが重要であると考えられる。また、災害遺構に関する項目について課題度が工夫度の値を上回っていることから、各自治体の規模の違い等の理由から施設単体の工夫だけでは解決できない課題があることが窺えた。

4-3. 災害伝承施設の運営状況について

運営状況に関する10項目に対する分析より(Fig.3)、こちらも重要度については全ての項目にて比較的重要であることが確認できた。しかし、金銭面に関する項目や災害遺構に関する項目について課題度が工夫度の値を上回っていることから、長期維持による財源の減少や災害遺構として当時の状況を保存する上で、新たに手を加えられないという課題があることが窺えた。

また、災害に関する展示内容については重要度、工夫度ともに値が高いことから展示に関する項目が運営に関する満足度の向上に繋がっていることが考えられる。

4-4. 災害伝承施設の集客方法について

集客方法に関する15項目に対する分析より(Fig.4)、施設内にその他諸室を併設する項目については重要度、課題度ともに低い値となり、整備段階から継続した周辺施設との連携が重要であることが窺える。また、誘致方法に関する項目が重要度、工夫度ともに高い値を示しているが、主に各種SNSやチラシ・ポスターによる宣伝に留まっており、企業や自治体との連携面においては未だ課題となっていることが考えられる。

5. おわりに

本稿では、来場者の増加には展示内容の豊富さ等が影響していることが窺えた。また、災害伝承施設の整備段階においては、周辺施設と併せた計画が重要であ

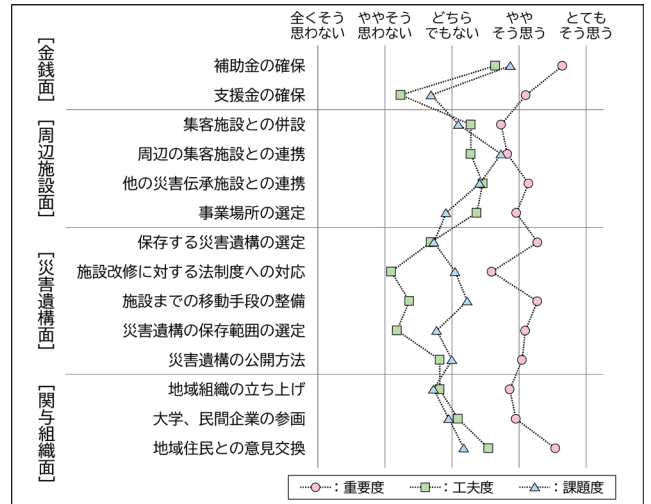


Figure.2 Facility Development Phase Items

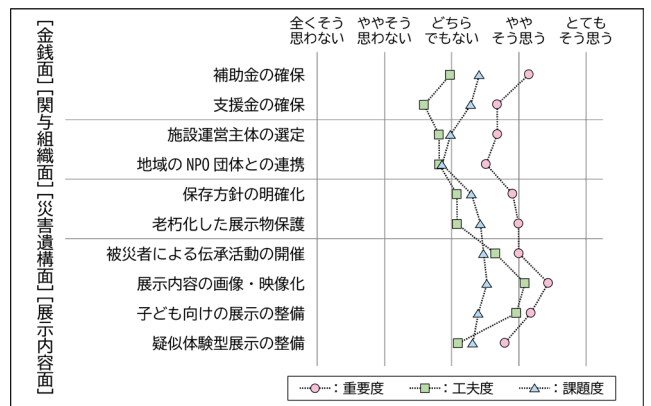


Figure.3 Facility Operation Status Items

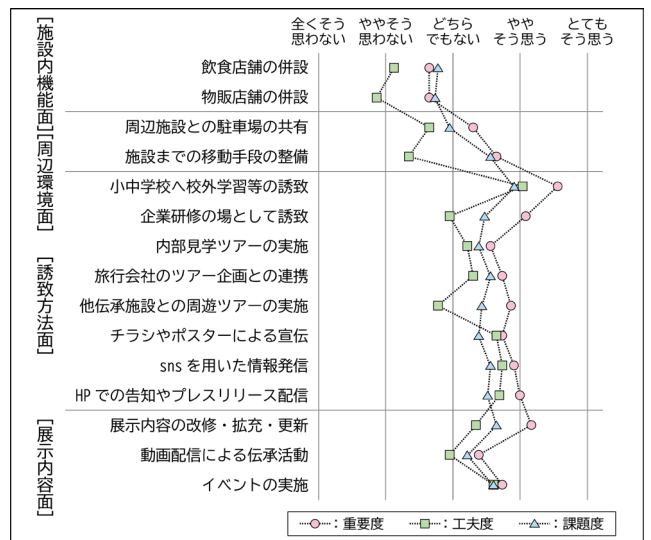


Figure.4 Facilities Attracting Customers Items

り、運営においては金銭面が課題である一方、展示内容に関する工夫が運営の満足度に影響していた。さらに、集客においては企業や自治体と連携した誘致方法に関して課題となっていた。

参考文献

[1] 毎日新聞:「増える伝承施設維持費負担や地元の関心低下に懸念」, 2023年3月11日発行。